

## 2-4) 診断手順と注意事項

## 2-4-1) 診断手順

本症は以下の図1に従って診断されることを想定している。

サルコイドーシスは、自覚症状がなく検診で発見される病態から、多彩な諸臓器症状や全身症状を呈する病態まで幅広い臨床症状を呈することが知られている。しかし、本邦では、呼吸器科、眼科、循環器科領域の症状を訴えることが多いので、上記臓器のいずれかの当該臓器の各種検査で、臓器病変を強く示唆する臨床所見を確認することにより、サルコイドーシスに特徴的な検査を実施し、診断する場合がある。また、上記以外の臓器病変の異常を認め、生検等で組織学的に乾酪壊死を伴わない類上皮細胞肉芽腫が証明されたことにより、サルコイドーシスを考え、全身検索と特徴的な検査の実施によりサルコイドーシスが診断される場合がある。どちらの場合もできる限り組織診断を加え、十分に除外診断を行うことが重要である。

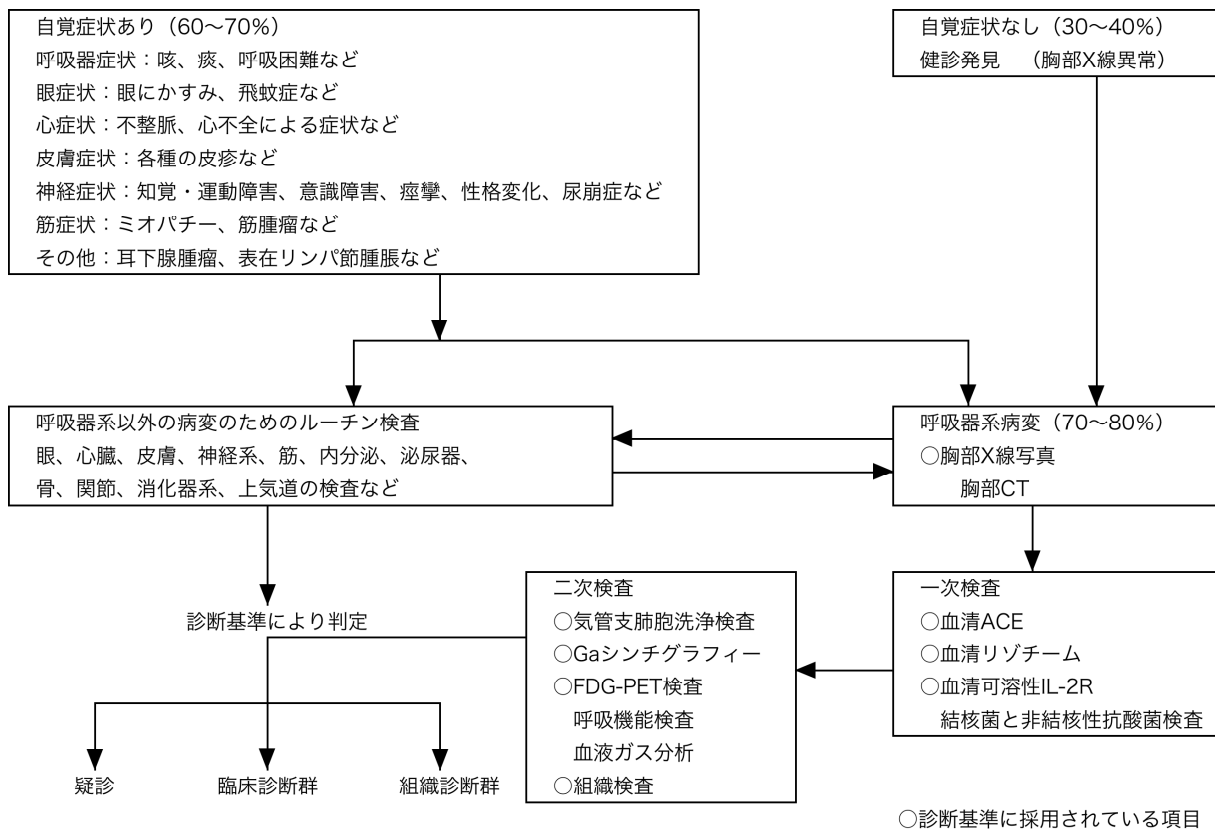


図1. サルコイドーシス診断のアルゴリズム

## 2-4-2) 診断および経過観察における注意事項

サルコイドーシスは同時性および異時性に多臓器に病変を有する全身性疾患であるので、既往歴の確認を十分に行い、各種臓器病変の有無を経時的に検討する必要がある。また、サ

ルコイドーシスとして各臓器の診断の手引きから典型的な症例で組織学的な検討が困難な場合でも臨床診断群として、申請し、治療ができるようにした。この場合も十分に鑑別診断を行うことが前提である。また、サルコイドーシスを疑うが、上記の基準を満たさない症例において治療の必要がない場合には、疑診として経過観察を行うこととする。一方、疑診でも心臓サルコイドーシスや中枢神経サルコイドーシスを強く疑い、生命の危険が想定される場合は治療的診断として、診断に先行して治療を行う場合があることを付記する。

## 文献

- 1) 厚生省びまん性肺疾患調査研究班：サルコイドーシス。難病の診断と治療指針 厚生省保険医療局疾病対策課監修 1997年；62-65.
- 2) サルコイドーシスの診断基準と診断の手引き-2006. 日サ会誌 2007；27：89-102.
- 3) 厚生労働省びまん性肺疾患調査研究班：サルコイドーシス。難病指定医テキスト 厚生労働省健康局疾病対策課監修 2015年
- 4) 四十坊典晴，山口哲生．わが国におけるサルコイドーシスの診断基準と重症度分類．日サ会誌 2015；35：3-8.
- 5) ATS/ERS/WASOG： Statement on sarcoidosis. Am J Respir Crit Care Med 1999; 160:736-755
- 6) 四十坊典晴，市村志保，伊藤峰幸，他．類上皮細胞肉芽腫を証明したサルコイドーシス 516 例における各種検査所見の解析．日サ会誌 2007; 27：29- 35.
- 7) Miyoshi S, Hamada H, Kadowaki T, et al. Comparative evaluation of serum markers in pulmonary sarcoidosis. Chest 2010; 137: 1391-7.
- 8) 村上康司，玉田 勉，奈良正之，他．診断基準改訂前後のサルコイドーシスの臨床的特徴と予後予測因子としての sIL-2R 変化率の検討．日サ会誌 2013;33：83- 89.
- 9) Tomita H, Sato S, Matsuda R, et al. Serum lysozyme levels and clinical features of sarcoidosis. Lung 1999; 177: 161-167.
- 10) Costabel U, Guzman J, Drent M. Diagnostic approach to sarcoidosis. Eur Respir Mono 2005; 10: 259-264.